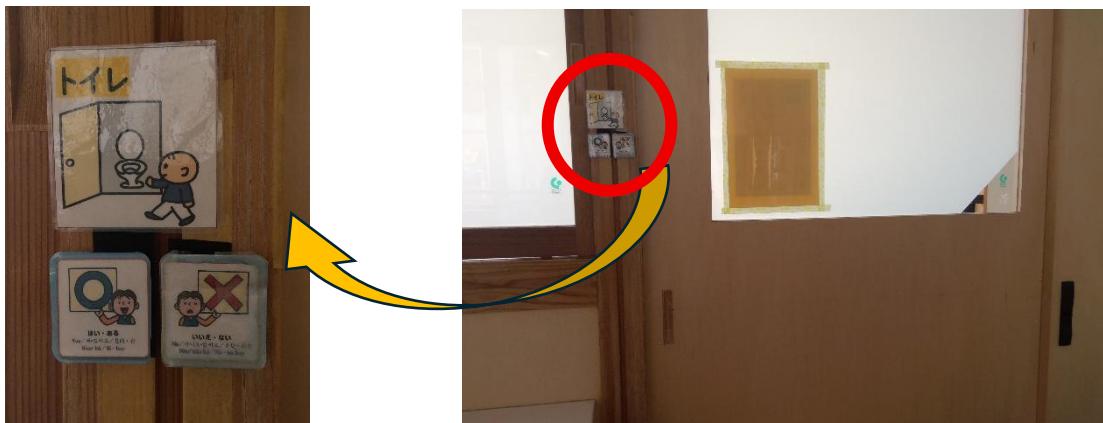


環境設定 4

配置は「使う場所に使う分」だけ

場所：教室出入口



こんなときに・・・



いろいろなコミュニケーションカードを用意していますが、

なかなか自分から使ってもらえないで・・・

こんな子に・・・

- ・行先を告げずに、教室から出かけていってしまう子
(※報告が必要なことに気付けていないかもしれません)
- ・自発的なコミュニケーションが少ない子
- ・「はい」「いいえ」の返事がはっきりしない子
- ・「はい」「いいえ」の自己選択の機会を作りたい子

構造化の
視点から・・・

「視覚支援」は、提示の仕方や物によっては情報過多に・・・
その子どもが①理解しやすいか②安心して自信をもって使えるか③注意を集中しやすいか④不必要的混乱を招いてしまわないか・・・などの視点で、引き算で考えてみると、新たな気付きがあるかもしれませんね。

【次へのステップ】

まずは、対象となる子どもにとって最も必要なカードに絞って、使う場所に配置してみてはどうでしょうか？ それが使えるようになってから、次へのステップとして、コミュニケーションブックやコミュニケーションボードの中へ加えると、案外スムーズかもしれません。

おまけの効果 や 支援のコツ



「伝えてくれると、助かるよ」
「伝えてくれてありがとう」などと、
まずは、報告してほしいという先生の
気持ちを、伝えてみませんか？

子どもがカードに目線を移したら、離席を予測できるかもしれません。